

考慮すべき諸条件

<アクセス>

○東京から約250km(車:約3時間半)／仙台から約150km(車:約2時間)／郡山・若松市街から約30km(車:約45分)

<環境>

- 磐梯朝日国立公園の一部
- 猪苗代湖と磐梯山を一望するロケーション
- 砂浜とアカマツが織りなす白砂青松の景観
- 春の桜、冬のしぶき氷など四季の景観
- 周辺市街地との標高差による冷涼な気候

<主な現況施設>

- キャンプ場 ○炊事場(水場) ○BBQ炉
- トイレ ○駐車場

<主な利用状況>

- キャンプ ○湖水浴 ○カヤック・SUP(非動力)
- 休憩 ○散策 ...

<地域の問題意識>

- 施設の老朽化、現代のニーズに合っていない施設・設備
- 森林の荒廃、それによる倒木の発生、眺望の劣化
- 不適切・無秩序な利用 [例] 騒音(大声、音楽、ラジコン、深夜早朝の車移動など)、路駐、ゴミの散乱、屋外排泄、火の不始末、キッチンカーの無許可営業、キャンプ禁止箇所でのキャンプ、夏の混雑 など
⇒近寄りたがたい雰囲気の一部ある
- 排他独占の利用(テントの常時設置など)
- 担い手の不足
- 財源の不足

<キャンプ場の問題点>

- オート(車乗り入れ)対応の不足
- シャワーや温浴施設の不足
- 利用案内の不足
- 物販機能の不足
- 飲食機能の不足

<考慮すべき主な外的要因>

- インバウンド
ー国立公園満喫プロジェクトによる誘客促進
- ー福島空港 台湾定期便就航
- ー仙台空港 台湾定期便再開
- 冬季利用の推進
ーアルツ磐梯・裏磐梯スキー場のリフト接続

<地元の思い(区長のみなさんへのヒアリング)>

- (量の観点)過度な誘客ではなく、環境や地域の暮らしを適切に維持保全できる程度の適正な利用を。
- (質の観点)基本的なルールやマナーをしっかりと守ってくれる人に来てもらいたい。
- (地域経済の観点)地元のものやサービスを利用してもらい、地域に触れてもらい満足してもらうとともに、地元にも経済的なメリットが生じるように。

アンケート結果

<アンケート結果(R5.09.16土・17日 221サンプル)>

○発地(単回答)

郡山市内:31% 福島県内:22% 首都圏:18%
北関東地方:13% 東北地方:8% その他+無回答:9%
⇒市内+県内+首都圏で7割以上

○選んだ理由(複数回答) ※10%以上のみ記載

景観や自然が良い(49%) 料金が安い(37%)
近い(33%) 静か(18%)
安心して利用できる(16%) 気候が良い(10%) ほか
⇒「景観や自然」を理由に選ぶ人が約半数

○来訪目的(複数回答) ※10%以上のみ記載

キャンプ(58%) デイキャンプ(16%) 湖水浴(13%)
カヤック・SUPなどの非動力船利用(12%) ほか
⇒「キャンプ」(デイ含む)が7割以上を占める
※調査時期が湖水浴シーズンではないことに留意

○来訪回数(単回答)

はじめて(32%) 2回目(12%) 3回目(10%)
4回目以上(47%)
⇒「はじめて」と「4回目以上」が多い

○人数構成(単回答)

1人(20%) 2人(32%) ファミリー(18%)
グループ(29%) 団体(1%)
⇒1人・2人が約半数、ファミリーが2割未満

○満足度(単回答)

<満足+やや満足が8割以上の項目>
ー自然環境が織りなす景観(96%)
ー人の営みが織りなす景観(田園景観など)(81%)
ー喧騒から離れた静かで穏やかな雰囲気(86%)
⇒景観や静けさに対する満足度が高い

<不満+やや不満が1割以上の項目>

ー駐車場・トイレ・炊事棟・場内の清潔さ・快適さ(13%)
ールールやマナー違反への適切な指導や注意(10%)
ー食事や喫茶が楽しめる場所や環境(13%)
ー温泉や風呂などの入浴施設(12%)
ー現地での利用案内などの情報提供(10%)
⇒施設、利用指導、食事・入浴・案内の満足度が低い

○良いところ(自由記述・カテゴリ分けの上、集計)

景観・自然(48%) 特になし(25%)
静けさ(24%) 利用料金(20%)
施設・設備関係(13%) ほか
⇒景観や静けさが評価

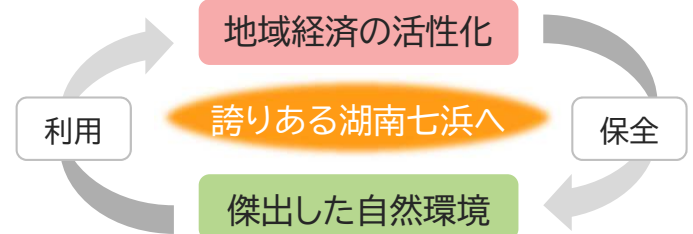
○改善すべきところ(自由記述・カテゴリ分けの上、集計)

特になし(34%)
設備関係(トイレ、水回り、案内など)(33%)
マナー関係(焚火、騒音、ゴミ)(24%)
周辺利用施設(コンビニ、温泉など)(7%)
利便性(駐車場、道路など)(4%)
⇒3割がトイレ・水回り、案内、2割がマナーを要改善と評価

計画の目標と取組の視点

<目標> 地域と来訪者それぞれが自慢したくなる誇りある湖南七浜へ

湖南七浜の最大の特徴である、傑出した自然環境の保全と自然を活かした地域の暮らしにも配慮した質の高い観光を両立することで、その恩恵を自然環境に還元する、好循環を創出する。
観光利用には地域のモノやサービスを積極的にとり入れ、来訪者に唯一無二の体験を提供するとともに、地域経済の活性化を図り、持続可能性を高める。
地域住民・観光客がそれぞれの満足度を高め、双方が自慢したくなる誇りある湖南七浜を目指す。



<取組の視点と代表的な取組の例>

■基盤となる自然環境の保全

└自然環境の適正な管理

- ⇒ 樹木や林床の適切な管理による森林の保全
- ⇒ 倒木・落枝リスクのある樹木への対応
- ⇒ 眺望点における通景の確保、沿道の景観整備

■地域の満足度の向上

└不適切・無秩序な利用の改善

- ⇒ 利用者(インバウンド含む)向けの利用ルールの策定と普及啓発
- ⇒ 事業者向けのルールの策定と普及啓発・遵守徹底(アクティビティ、キッチンカー、イベント事業者など向け)
- ⇒ 管理体制の確保・充実 ※民間活力導入(指定管理等)についても検討

└地域のモノ・サービスの利用と地域経済の循環

- ⇒ 各種事業実施における地域との連携の重視

└湖水浴等の地元を中心とした既存の利用環境の確保

- ⇒ 利用とのすみわけ等による安心安全な利用環境の確保

■観光客の満足度の向上

└既存施設の改善

- ⇒ キャンプ場のエリアの明確化・利便性の向上(冬季利用も一部想定)
※ 他の利用とのすみわけを考慮したキャンプ場の配置
- ⇒ トイレ、水場、BBQ炉、ゴミ集積所、駐車場などの配置の最適化
※ ニーズや想定利用人数などを考慮し、仮設物などの併用も念頭に検討
- ⇒ 標識類の配置の最適化

└新たな施設導入による利用者サービスの充実

- ⇒ 管理拠点の創出
- ⇒ 飲食・物販機能、温浴機能(シャワー等)の導入
- ⇒ 湖南七浜の景観を活かした誰でも利用可能な園地の整備
※ 湖祭りや地域のイベントなどの場所としての利活用も検討

└安心安全な利用環境の提供

- ⇒ 管理体制の確保、利用者向けのルール策定と普及啓発・遵守徹底(再掲)

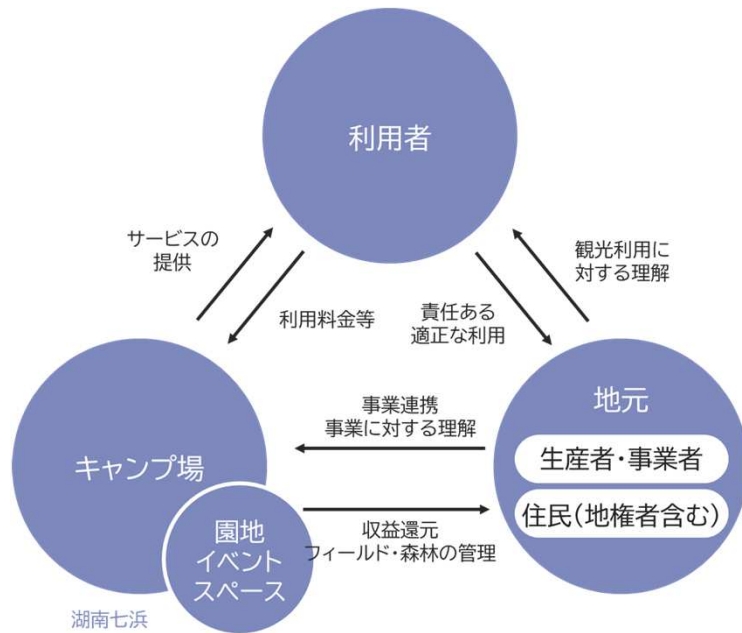
└情報発信の充実

- ⇒ 湖南七浜や各浜の魅力や利用方法、利用ルールの周知
- ⇒ 周辺の観光施設と連携した情報発信や連携の推進

＜地区運営の基本的な考え方＞ 適正な利用と地域連携がなす、キャンプ場を中心とした収益化による地域経済の循環と自然環境の保全

利用者には利用ルールの周知などを通じて、責任ある適正な利用を求める。観光利用による収益の一部をフィールドや地元に還元することで、自然環境の保全や地域社会の経済循環に寄与する。

地域の生産者や事業者と連携しながら、キャンプ場を中心に湖南七浜ならではの利用者にサービスを提供し、その対価として利用料金等を得て、自然環境の保全や経済循環の原動力としていく。



＜拠点形成の考え方＞ キャンプ場の重点整備と他の産業への波及

キャンプはサイクリングや登山などの代表的なアウトドアアクティビティと比して、消費金額が大きく、また宿泊を伴う利用形態なため、滞在時間が長くなる傾向がある（他のアクティビティやサービス利用の機会獲得につながる）。

このため地域経済の循環の観点からは有効なアクティビティであり、湖南七浜においてもキャンプ場を重点的に整備を行う。

既存の利用（湖水浴、カヤック、地元の祭事など）についても需要が高いことから、これらの受け皿となる拠点形成も併せて行い、キャンプ利用との相乗効果の発揮を狙う。

また、拠点となる湖南七浜と周辺施設の連携により、地域全体の魅力を最大限に引き出し、滞在時間の延長と消費金額の増加といった相乗効果を図る。

【キャンプ場を中心とした地域経済活性化のイメージ】

＜キャンプ場への集客＞

- 現代のニーズにあわせたソフト・ハードの改善
- 団体利用やワーケーションなどへの対応

＜地域事業者との連携＞

- キャンプとアクティビティの体験プランをセット販売
- キャンプ場での地域食材の販売

＜周辺地域への波及＞

- 食材購入／温泉／食事／観光施設への立ち寄り等による観光消費の促進



1組1回あたりの
キャンプ費用

直接効果

キャンプ場サイト利用料・レンタル・売店

キャンプ場所在県内での食材購入

キャンプ中・後の温泉立ち寄り

間接効果

スーパー・温泉・観光施設・交通費等

観光地への立ち寄り ほか

共通	・遊歩道や森林については、自然とのふれあいの場として活用することを念頭に、良好な森林環境の保全や眺望景観の確保に向け、関係機関と協議の上、必要な取組を検討。 ・湖面利用については、湖面利用ルールのゾーニングを基本原則とし、陸側の利用（キャンプやその他のアクティビティ）とのすみわけや動線区分を検討。
----	--

